

日時：令和7年1月30日（木） 19時～ 場所：やっちくふれあいセンター
--

第3回 志布志市松山地域の学校の在り方検討委員会

会 次 第

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員長挨拶
- 4 報告
 - (1) 小中一貫校（伊崎田学園）のメリット等について
 - (2) 今後の方向性に係る事前の意見集約結果について
- 5 協議
 - (1) 松山地域の学校の在り方に関する検討内容の中間取りまとめ（案）について
- 6 その他
- 7 閉会

小中一貫校（伊崎田学園）のメリット等について

○ メリット

1 多様な異学年交流の活発化による小中接続の適正化

- (1) 長期間に渡り顔見知りの教職員が見守る体制づくりができており、特に、中学1年生にとって、小学校の教職員が身近にいる安心感がある。
- (2) 隣接していることで地域との合同運動会などの共同実施がしやすい。小規模だからこそその理想的な形になっており、行事を通して児童と生徒、教師間の一体感が高まっている。
- (3) 小学生は、中学生との学校生活のふれあいの中で、近い将来をイメージでき、中学生は小学生の手本となったり、指導したりすることで学びの持続化を図ることができている。また、小学校の振り返りや教える喜び、小学生へのやさしさ・思いやりの醸成等を少しずつ育むこともできている。

2 小中乗り入れ授業など多様な教職員が多くの児童生徒と関わる体制

音楽教諭が小・中9年間を担当しているが、効果の一例として、市音楽発表会において、小学校3・4年生、中学校1・2年生の合同演奏が実現した。また、中学校教諭の社会の乗り入れ授業において、児童の中学校教職員に対する親近感や信頼感、職員間の交流において高い効果が出ていると感じている。

3 共有施設があることでの交流の活性化

共有施設である「ふれあい館」「学園体育館」があることにより、教師間、児童と生徒、生徒と小学校教師などの自然なコミュニケーションがあり、体育館が共有化したことで一層、増加している。

4 小・中文化の交流からの自己の見直し

小・中で統一の決め事は特にないが、中学校の服装の決まりの見直し（移行期間を設けず、各自で考え衣服を整える）に小学校も倣った結果、児童・保護者からもたいへん好評であった。

5 PTA 活動やコミュニティ・スクールの一体化

- (1) 組織を一本化することで、活動がスムーズに行われていることが多い。
- (2) 小・中学生の保護者の一体感・協力体制ができてきている。
- (3) 子供の短期・中期・長期の将来像を見通すことができるようになった。

○ その他

- 1 令和8年度からの「施設一体型小中一貫学校伊崎田学園」の成功のカギは、新校舎職員室の「フリーアドレス化」にあると考えている。

現在、担当者を置き、民間等の事例を基にしたソフト・ハード両面での「理想の職員室」への研究を開始した。早めに中学校へ呼びかけ、合同で考えていけるようにしたい。

- 2 生徒が「中学生として何ができるのか」という視点を持って、全ての教育活動に取り組ませ、自己肯定感や自己有用感を高めさせたい。このことにより、小学生は中学生にあこがれを持ったり、近い将来のイメージができたりすることで安心や自信を持って、様々な教育活動にチャレンジできるようになると考える。

○ 県内の小中一貫校の具体例

- ・ 子供たちにとっては、安心感・安定感につながる。
- ・ 縦のつながりの活動の充実が図られる。
- ・ 学校のカリキュラムだけでなく、昼休みに小・中学生がともに遊ぶ姿を見かけると、このことも中1ギャップの解消につながっていると感じる。
- ・ 乗り入れ授業については、毎年職員構成で変化がある。
令和6年度 小→中 音楽、美術
中→小 数学、英語、理科、体育

第3回松山地域の学校の在り方検討委員会 事前の意見集約に係る回答状況

委員数	回答数	回答率
28	14	50.0%

Q1 統合の賛否

区分	回答数	回答率
統合に賛成	14	100%
統合に反対	0	0%
合計	14	100%

Q2 Q1の回答理由をお書きください。 (Q1で統合に反対を選択した場合は、ここで終了です。)

区分	内容
統合に賛成	1 アンケート等で統合の意見が多いこと。そして、先々のことを見据えて統合した方がメリットが多いと思う。
	2 少子化による廃校となる前に、地域の意思として統合したほうが色々なことに前向きに取り組んでいけるから。
	3 児童数が減っていくため。
	4 共に学ぶ機会が増えることで、学力向上に繋がる。
	5 小学校から中学校への進学もスムーズであり、中学生自身の自主、自立の動きがより活性化することが予想できる。
	6 学習の幅が広がるため
	7 多くの意見や考えに触れ、多様性が身に付く。よい意味での競争心が芽生え、向上心が高まる。社会性やコミュニケーション能力が高まる。
	8 子どもの教育を考えるとある程度のボリュームを維持することが必要であると考えている。また、教育のまちを目指すためには小中一貫した継ぎ目のないカリキュラムや環境が現時点では最善だと判断した。
	9 今後、児童数が益々減っていき、限られた人間関係の中で社会性を身に付けるより、より多くの友人の中で、様々な価値観にふれ社会性を身に付けた方が、社会に出たときに、柔軟な対応ができるようになるのではないと思う。また、少なく限られ、固定化された人間関係の中で苦しんでいる子もいるように思う。
	10 児童数が減少しており、いづれはどの学校も全学年複式になりそう。世帯数も少なくなり、PTA活動や役員など負担が大きくなる。
	11 子どもの減少
	12 だんだんと子供の数が減ってきているため
	13 今後の子供の数を考えると統合が良いと考える
	14 少人数だから

Q3 統合の形態

区分	回答数	回答率
小学校のみの統合	5	35.7%
小中一貫校（義務教育学校を含む。）	9	64.3%
合計	14	100%

Q4 Q3の回答理由をお書きください。

区分	内容
小学校のみの統合	1 小中一貫となれば、時間がかかるため
	2 小学生の上級生と中学生が同じ空間で過ごす悪い影響を受けるのではないかと不安
	3 小中一貫校とするには、校舎の建築から始めることになり、時間を要する。まずは、小学校を統合し一本化し、その後、小中一貫とした方がよりスムーズに一貫校へと進めることができるのではないかと思います。
	4 小中一貫に関しては今現状での必要性を感じない。メリットもあるだろうが、先の読めないデメリットも出てくると思う。そういった時に対処する為の先例や知識が少なすぎる。
	5 場所を変えるという意味で、小学校から中学にあがる際に環境の変化もあってもいいのかなと思います。
小中一貫校（義務教育学校を含む。）	1 小中学校統合の方が各小学校が平等に統合について考える事ができる。何処かの学校を使うと地域の思惑が働きそうで、本来の子供たちの為ではなくなる気がする
	2 兄弟が同じ学校なら、行事の度に休みを取る回数が少なくなりそうだし、PTAも都合よいと思う。学校の維持費も考えると小中一貫が良さそう。ただ、9年間環境が変わらないと、中学に上がっても緊張感が乏しそうなので、線引きはしっかりした方がいいと思う。
	3 Q2同様（子どもの教育を考えるとある程度のボリュームを維持することが必要であると考えている。また、教育のまちを目指すためには小中一貫した継ぎ目のないカリキュラムや環境が現時点では最善だと判断した。）
	4 中1ギャップが緩和される。学習規律や生活規律の定着がより図られる。児童生徒の思いやりや助け合いの気持ちが自然と生まれる。
	5 9年間を見据えたカリキュラム編成を行うことで、より充実させることができると考える。
	6 統合するなら、小学校のみでも小中一貫校でもどちらでも良いと思っているのですが、小中一貫校の方がメリットがあるのかなと思いました。
	7 伊崎田学園の事例や小学校の複式問題、そして、中学校の老朽化を踏まえ小中一貫校の方が子ども達にとってもメリットがあるのではと思う。
	8 回答なし
	9 回答なし

Q5 統合後の学校の位置

(Q3で小学校のみの統合を選択した場合のみ入力してください。小中一貫校の場合は、現在の松山中学校になります。)

区分	回答数	回答率
現在の松山小学校	1	20.0%
現在の泰野小学校	4	80.0%
現在の尾野見小学校	0	0.0%
合計	5	100%

Q6 Q5の回答理由をお書きください。

(Q3で小学校のみの統合を選択した場合のみ入力してください。)

区分	内容
現在の松山小学校	1 規模の大きさ
現在の泰野小学校	1 泰野小は真ん中で集まりやすいため
	2 教室の狭さ等施設の心配はあるが、現在の人数では、大型バス2台による通学になると予想される。松山小側から1台、尾野見小側から1台バスを走らせる方が、バスの乗車時間も短くなり、登下校時間やバス停等柔軟に対応できるのではないだろうか。
	3 町を中心だから。しかしながら駐車場の狭さ、駐車場への道路の狭さを改善して欲しい。
	4 松山の真ん中だから

Q7 統合の時期

区分	回答数	回答率
令和8年4月（小学校のみ統合の場合の最短）	4	28.6%
令和9年4月	1	7.1%
令和10年4月	0	0.0%
令和11年4月（小中一貫校の場合の最短）	5	35.7%
令和12年4月	1	7.1%
その他	3	21.4%
合計	14	100%

Q8 Q7の回答理由をお書きください。

区分	総合の形態	内容
令和8年4月（小学校のみ統合の場合の最短）	1 小学校のみの統合	今後の松山の方向性を決めるのなら早い方がいいと思う。
	2 小学校のみの統合	児童数は毎年少なくなっていて、複式学級になっているため早い方がいい。
	3 小中一貫校（義務教育学校）	小学校の複式を早めに解消していただくため、小中一貫校の整備を進めながら小学生の統合を先に行ってほしい。（その場合は、泰野小にすると、中学校へのアクセスも良いと考える。）
	4 小学校のみの統合	問題を先延ばしにしても色々な負担が長引くだけなので、できるだけ早いほうが良い
令和9年4月	1 小学校のみの統合	小学校を統合するとなった場合、閉校式等実施することになると予想される。そのためには、準備期間として、最低2年は必要だと考える。
令和11年4月（小中一貫校の場合の最短）	1 小中一貫校（義務教育学校）	なるべく早い時期が望ましいが、議論する時間は必要と考える。
	2 小中一貫校（義務教育学校）	できるだけ早い時期に実施した方がよい。
	3 小中一貫校（義務教育学校）	児童数の減少は年々進むことは明らかであること。 よりよい環境が整うのであれば親としては一日でも早くそのような環境で教育を受けさせたい。
	4 小中一貫校（義務教育学校）	回答なし
	5 小中一貫校（義務教育学校）	できるだけ早く
令和12年4月	1 小中一貫校（義務教育学校）	各地域への十分な説明等で、時間をかける必要があるため。

区分		総合の形態	内容
その他	1	小中一貫校 (義務教育学校)	いつが良いという判断が難しいため。 準備期間があった方が保護者も子どもたちも気持ち的に余裕があるように思います。
	2	小中一貫校 (義務教育学校)	建物や人員配置など環境が整った時次第
	3	小学校のみの統合	急ぐ必要はないと思います。

Q9 統合に当たって、その他の意見や要望があれば、お書きください。

統合の形態	内容
小学校のみの統合	1 在り方検討会である程度の方向性が決まったら、それを地域やPTAで検討する時間を設けたいと思うので、1月30日の会以後、しばらく時間を頂いて、次の会を実施していただけるとありがたい。
	2 尾野見地域は他の地域に比べ反対意見が多い。子どもたちの事を考えての意見はもちろんだが、地域そのものの特性や活性が失われていくのを危惧する声が多い。 そのため説明会と質疑応答の場を設ける予定である。 できるだけ多くの方に参加して頂きたいので現在日程を調整中である。
小中一貫校（義務教育学校を含む。）	1 教育のまちの部分で、いまひとつ弱い気がします。
	2 在り方検討委員会でも話が出たが、ハードももちろん必要と考えるが、先生や学校のしくみといったソフトについても先進事例や官民連携も含め取り入れていただきたい。
	3 通学手段について、御検討をお願いします。
	4 現在までの松山地域の背景を考えると、小中一貫型（義務教育学校）が望ましいと考える。 松山中学校敷地内（体育館前辺り）に小学校棟を新設し、現在の中学校棟と連携して活用する。
	5 11月に行ったアンケートの結果を今後の学校の在り方の検討に活用するとのことですが、松山地区の保護者の意見がどれくらい統合に関して反映されるのかが気になりました。 アンケートの結果だけをふまえるとしたら、意見として一番多い小学校3校のみを統合する方が良いということになりますが、結局はそうならずさらに委員会で決めて行くことになるので、何のためのアンケートだったのだろうとなってしまうのではと思いました。 アンケートの中に志布志市のビジョンを示してもいいのでは、とありその通りだなと思いました。 もう少し具体的な情報（小中一貫校にする場合のメリットデメリット、統合時期や学校の位置など）を共有してのアンケートだとしたらまた違った意見もあったのかなと思いました。
	6 少子化なので、統合は免れないのかなとは思いますが、大人数の生徒数で勉強したいと思う人は住む場所は松山ではないと思います。 少人数は少人数のよさがあると思うし、子供たちが少人数でもいいなら統合する必要はないのかなとも思います。

松山地域の学校の在り方に関する検討内容の中間取りまとめ（案）

1 基本方針

『「将来の担い手となる子供たちにとって、より良い学びの場となるよう検討を進める。検討に当たっては、当事者である保護者の意見を大切にす
る。」ことを基本とし、「教育のまち 松山」の構築を目指す。』とする。

2 具体的な方向性

(1) 統合の賛否 統合する。

統合の賛否については、保護者アンケートにおいて、「小学校3校のみを統合する方が良い」が44.9%、「小学校3校と中学校を統合し、小中一貫校（義務教育学校）とする方が良い」が34.8%となり、合計で79.7%の保護者が小学校を統合することを望んでいる。また、当委員会委員の意見集約において、回答のあった委員14人の全てが統合に賛成していることから、統合する方向で進めることとする。

(2) 統合の形態 小中一貫校（義務教育学校）とする。

統合の形態については、保護者アンケートにおいて、「小学校3校のみを統合する方が良い」が「小学校3校と中学校を統合し、小中一貫校（義務教育学校）とする方が良い」を10.1ポイント上回っていたが、当委員会委員の意見集約において、回答のあった委員14人のうち、小学校のみ統合が5人、35.7%、小中一貫校（義務教育学校）が9人、64.3%となったことに鑑み、小中一貫校（義務教育学校）とする方向で進めることとする。

(3) 統合後の学校の位置 松山中学校とする。

統合後の学校の位置については、統合の形態が小中一貫校（義務教育学校）となったことを受け、これから新たな学校敷地の取得をする場合は、開校までに更なる時間を要することが見込まれることから、事務局から提案のあった現在の松山中学校で進めることとする。

(4) 統合の時期 令和11年4月とする。

統合の時期については、小学校のみの統合の場合、小中一貫校（義務教育学校）の場合のいずれも最短で統合することを多くの委員が望んでいることから、小中一貫校（義務教育学校）の最短である令和11年4月に統合する方向で進めることとする。

3 教育環境の整備等

- (1) 小学校の統廃合に当たっては、ハード面及びソフト面共に児童生徒が安心して通えるよう教育環境の整備をしっかりと行っていただきたい。

- (2) 小学校の統廃合に当たっては、児童の環境の変化に対応できる体制の整備を図っていただきたい。
- (3) 小学校の統合に当たっては、松山小学校及び尾野見小学校の児童の通学距離及び通学時間がこれまでよりも長くなることから、スクールバスを導入する等、児童の負担とならないよう通学手段の確保していただきたい。
- (4) 小学校統合後の学校跡地の有効的な利活用策について、地域と共に検討するなど、伴走型の支援をしていただきたい。
- (5) 統合するまでの4年間は、小学校3校が授業、学校行事等を通じて積極的に児童の交流の場を設け、全ての児童が統合後の学校での学校生活にスムーズに適用できるようにしていただきたい。

4 今後の協議

1から3までの内容について、報告を含め、地域やPTA等で協議していただき、令和7年4月に開催予定の検討委員会で最終的な取りまとめを決定することとする。

令和7年1月

志布志市松山地域の学校の在り方検討委員会